参考資料2

保険者機能強化アクションプラン（第3期）の
アウトカムと検証方法について

検証方法の基本的な考え方

目的

・保険者機能強化アクションプラン（第３期）に沿った取組みを着実に実行していく観点から、この実施状況を検証するための項目を作成し、目標の達成状況を検証する。

方針

・施策とアウトカム（成果）の因果関係を可能な限りロジックモデルによる構造化を行い、「実施状況」、「アウトプット（結果）」、「アウトカム（成果）」の３段階に分けて、それぞれの施策の実施によりどの程度、効果があったのか検証・考察する。

実施状況	目標ごとに設定した施策の実施状況を示す項目
アウトプット （結果）	施策の実施により、どのような結果が出たのか検証するための項目
アウトカム （成果） （※）	施策の実施により、どの程度の効果をもたらしたのか検証するための項目 なお、実際の検証の際は、協会けんぽの施策によって指標値を向上させる内生要因と協会けんぽの取組みの外部で生じる外生要因を考慮する

※　主にアウトカム（成果）では、協会けんぽの加入者データに基づく指標だけでなく、国などが公表する日本の全体像を反映した公開データも活用し、指標を設定している。公開データは更新時期が定義できないため、検証時点で最適な情報を選択する。

実施状況の検証時期

・平成27年10月制定後から28年度末までの実施状況を29年度上半期に、29年度の実施状況を30年度上半期の運営委員会に報告し、運営委員会での意見については、次年度の事業計画や保険者機能強化アクションプラン（第４期）（仮称）に反映させる。

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅰ 医療等の質や効率性の向上~

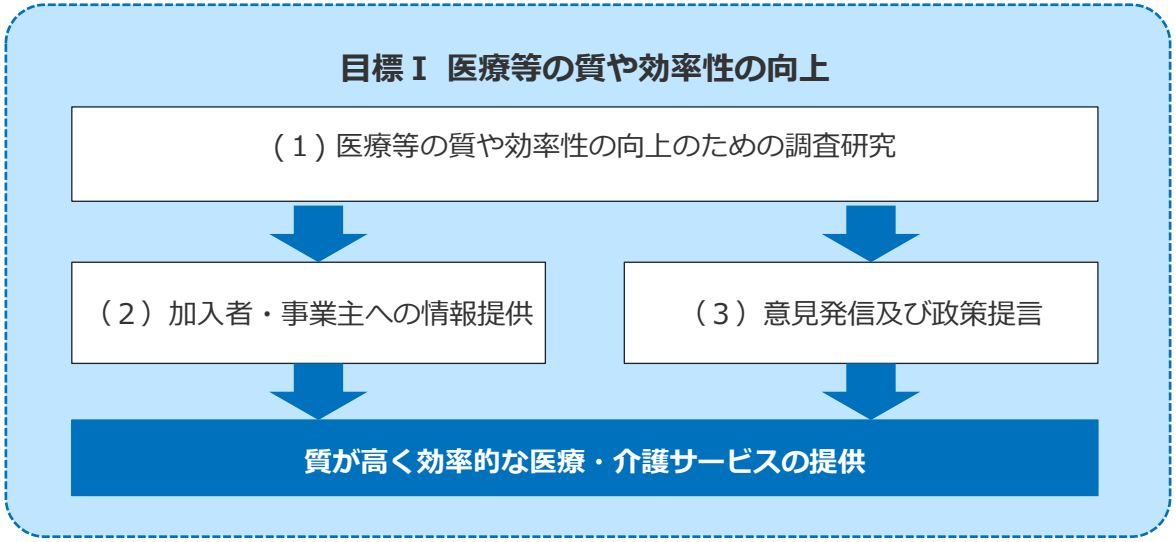
目標Ⅰ 医療等の質や効率性の向上

<目指すべき姿>

- 医療・介護を必要とするすべての人に対して地域の実情に応じて質が高く効率的な医療・介護サービスが提供される。
- 医療提供体制等の在り方について、保険者として加入者・事業主を代表した立場で関与し、他の保険者と連携しながら関係機関へ働きかけや意見発信を行う。

<アクションプラン（施策）とアウトカム（成果）の関係性>

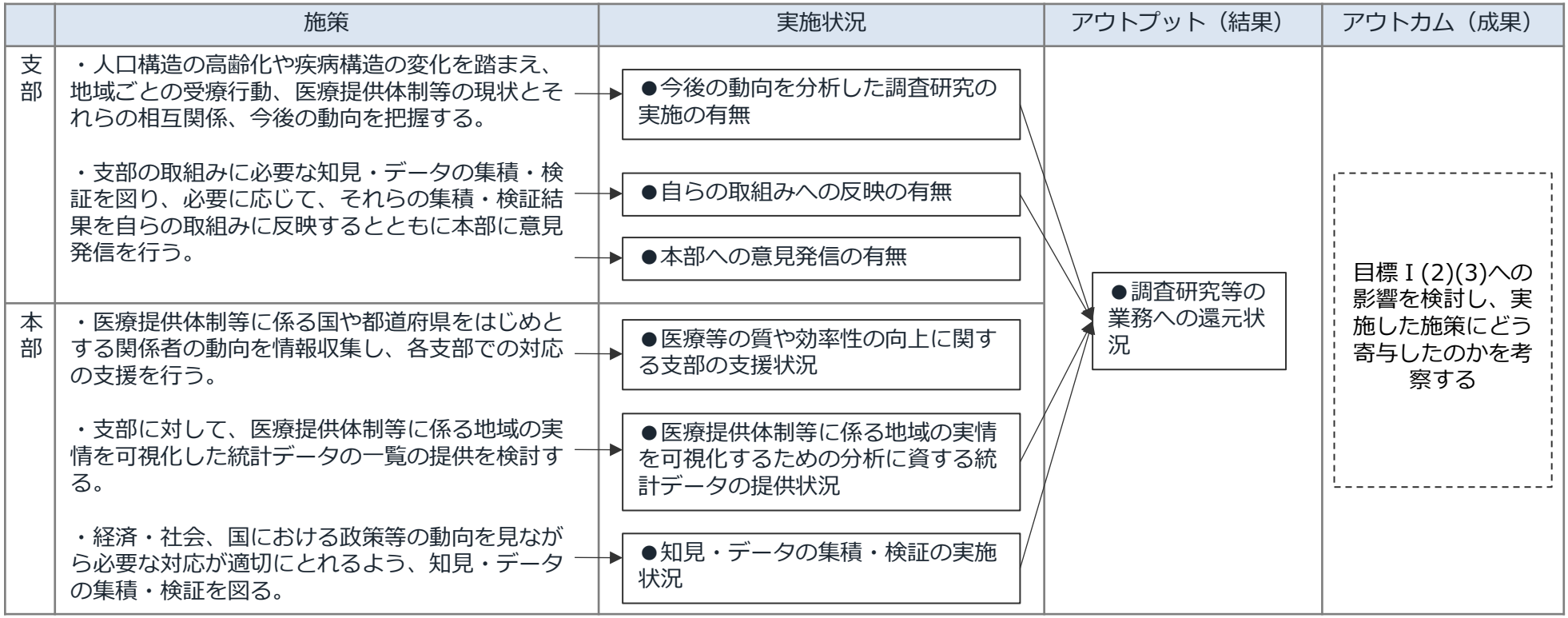
目標Ⅰの構成は、（1）調査研究で知見・データの集積を図り、（2）（3）でその情報を加入者、事業主、都道府県、国等に発信し、質が高く効率的な医療・介護サービスの実現を目指すものである。（1）の施策は、（2）（3）で定義するアウトプット（結果）、アウトカム（成果）の前段に位置づけられる。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅰ 医療等の質や効率性の向上~

(１) 医療等の質や効率性の向上のための調査研究等

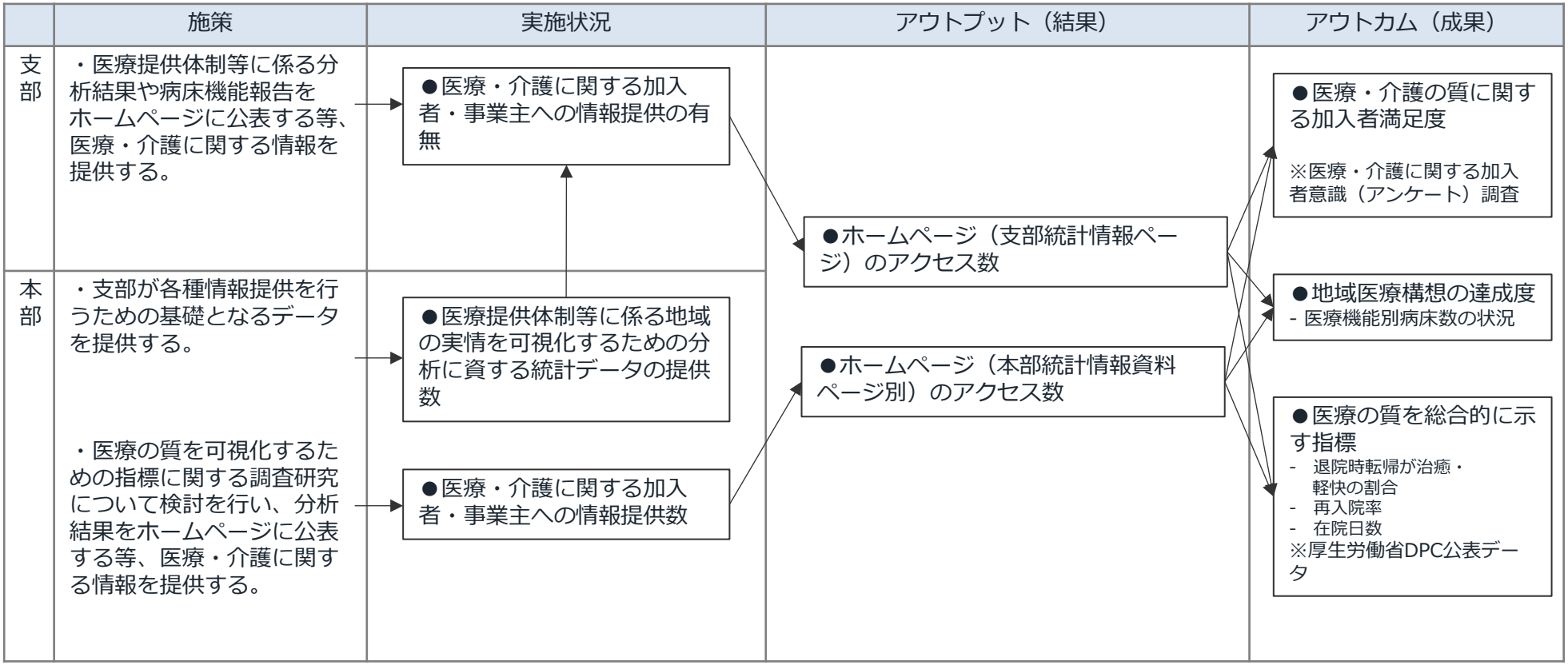
調査研究においては、研究そのものが目的ではなく、業務に還元すると共に、社会に発信していくことが重要となる。(１) は、(２)(３) の前段としての位置づけのため、独自のアウトカム（成果）は定義しない。アクションプランを検証する際は、各施策の実施状況をまとめ、目標Ⅰ(２)(３)へどう寄与したのかを考察する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅰ 医療等の質や効率性の向上~

(2) 意見発信及び政策提言に必要となる加入者・事業主への情報提供

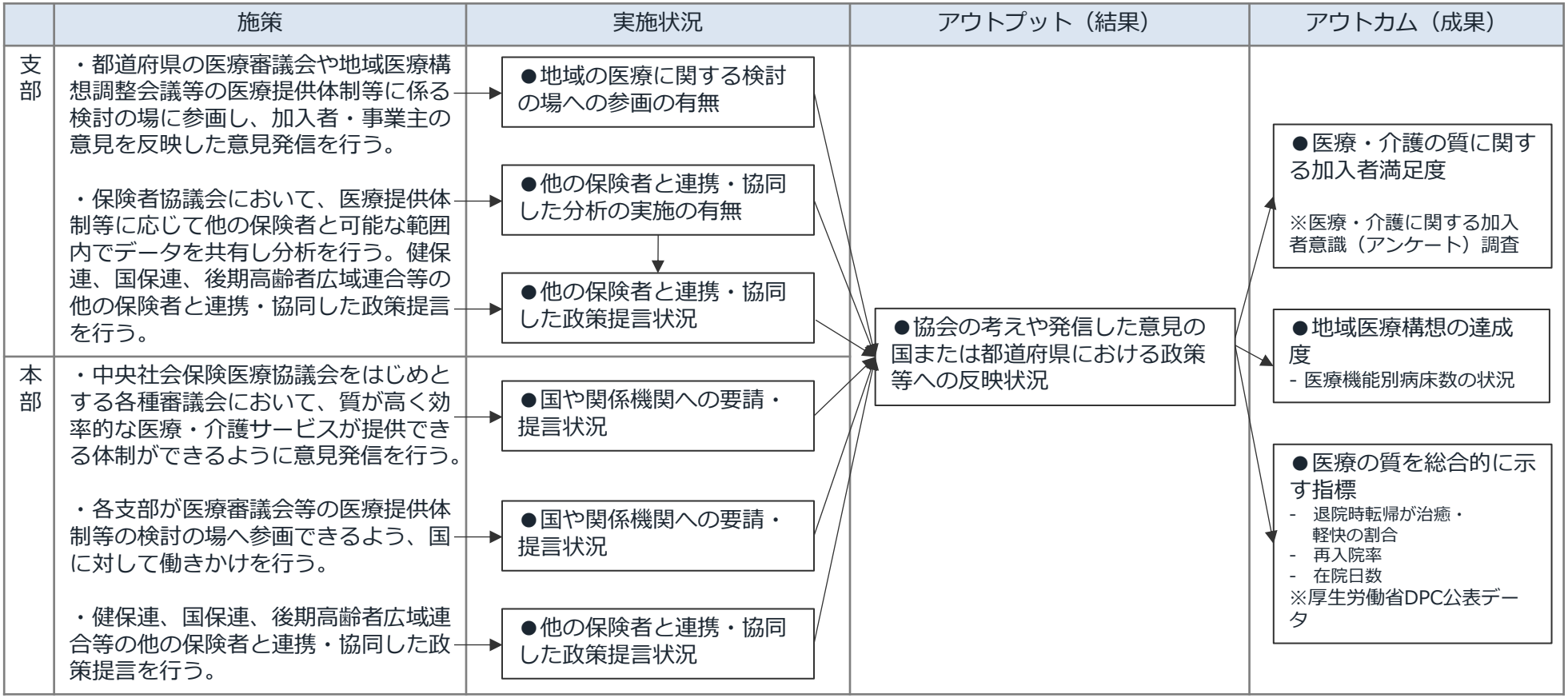
地域医療構想に対する加入者の認知度や理解度に着目し、施策との関係性を検証する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅰ 医療等の質や効率性の向上~

(3) 医療・介護の情報に基づく意見発信及び政策提言

医療の質や効率性の向上においては、病床の機能分化や連携を推進し、医療提供体制の「あるべき姿」を実現することが必要である。効率的かつ効果的な社会保険制度体系への改善に結びつく活動に着目して検証する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅱ 加入者の健康度を高めること~

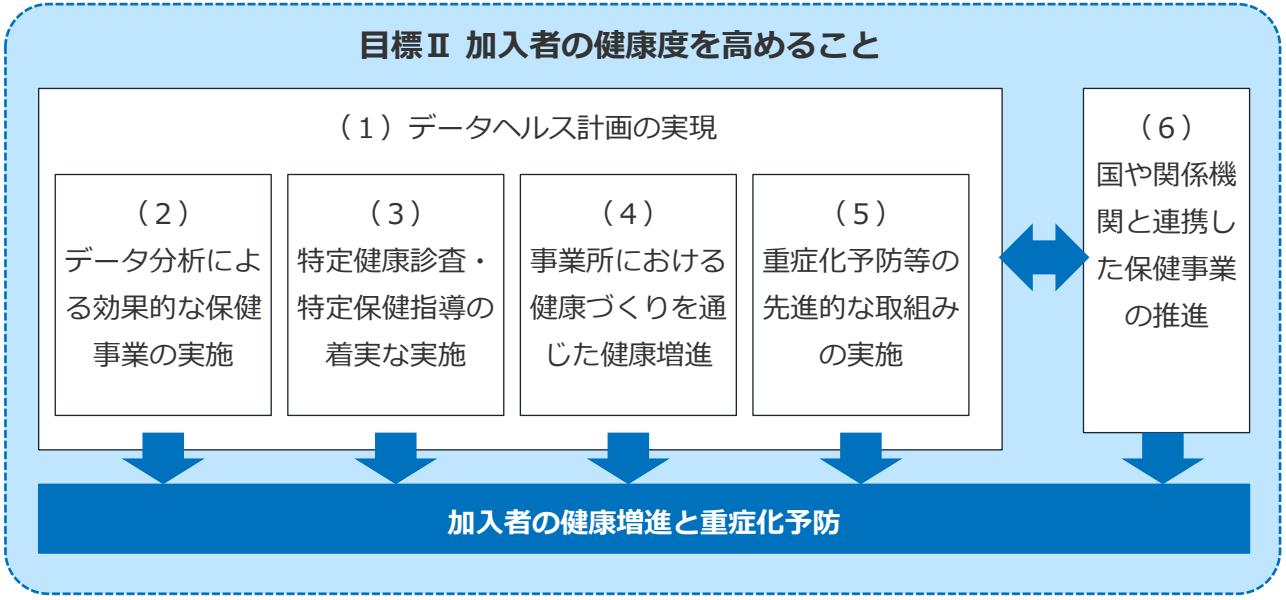
目標Ⅱ 加入者の健康度を高めること

<目指すべき姿>

- 加入者の健康管理をサポートし、健康に関する情報や健康相談を早期に受けられるようにする。
- 従業員の健康づくりに取り組む事業所が自らの取組みを評価でき、健康づくりの取組みが優れた事業所が評価される仕組みを構築する。
- 健康づくりに関するエビデンスの構築や指標づくり、インセンティブの付与を行うことで加入者にとってより良い選択ができる。
- 加入者の生活習慣病の発症予防、重症化予防の推進を中期的な期間で計画的に行い、医療費等の適正化に寄与する。

<アクションプラン（施策）とアウトカム（成果）の関係性>

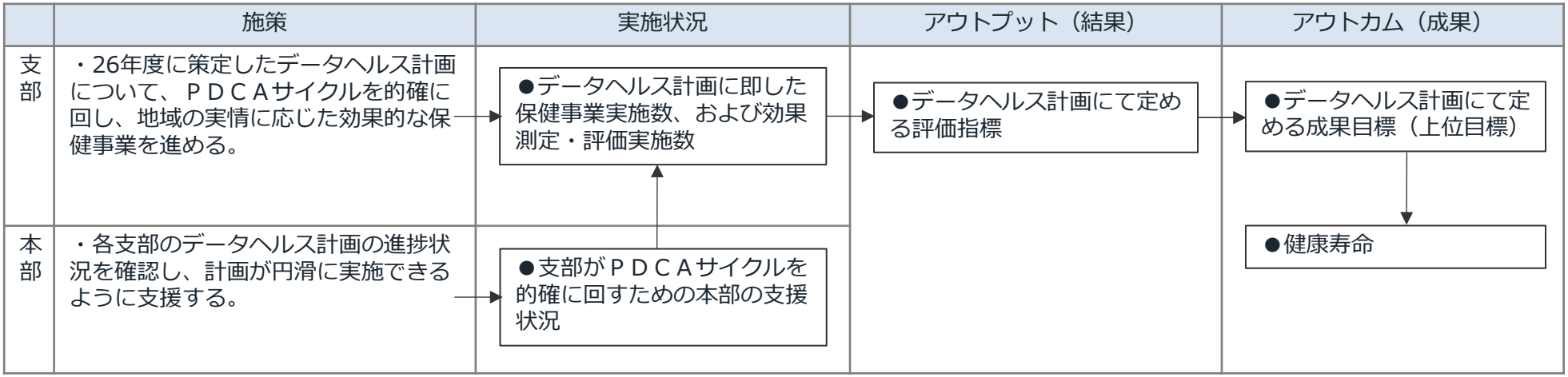
目標Ⅱにおいて（1）データヘルス計画は、（2）~（5）の個別施策の実現に向けた包括的な計画に位置づけられる。（6）は（2）~（5）の個別施策をふまえた国や関係機関との連携であり、アウトプット（結果）、アウトカム（成果）については（2）~（5）を踏襲する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅱ 加入者の健康度を高めること~

(1) データヘルス計画の実現

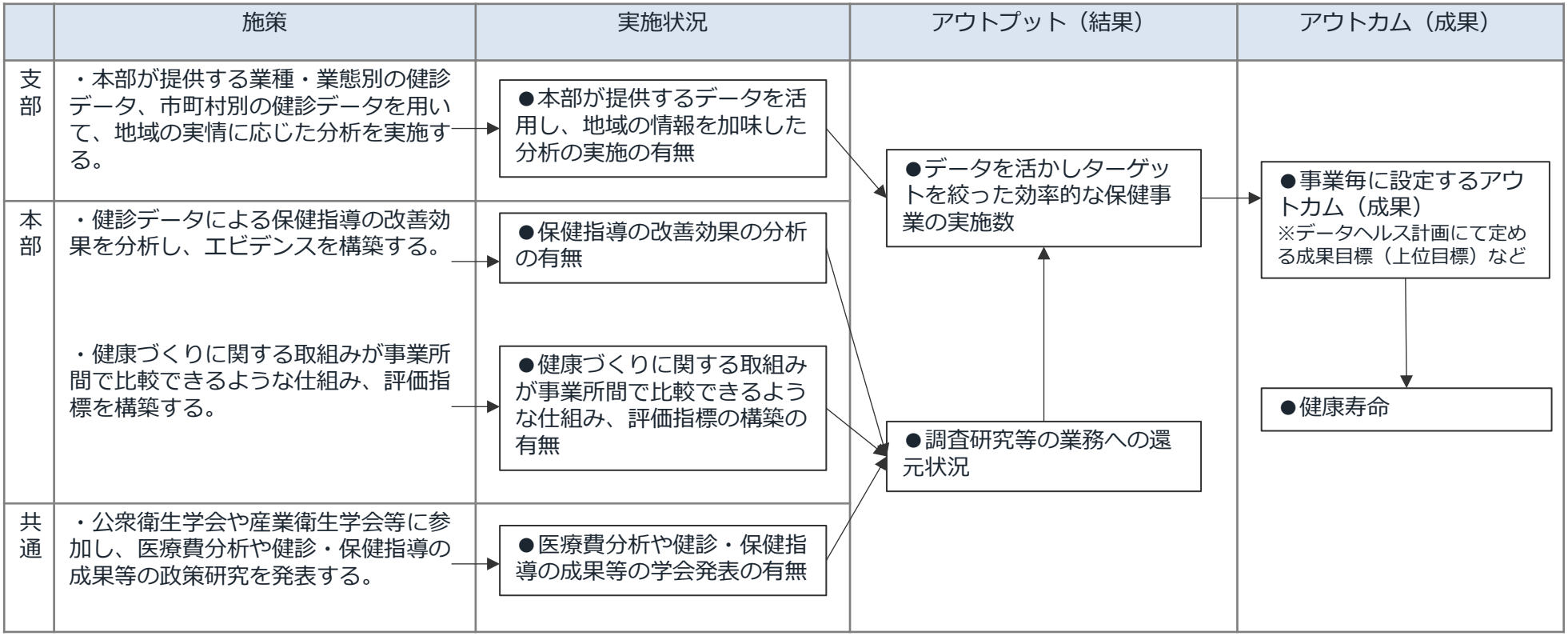
データヘルス計画においては、地域の実情に合わせて施策が定められるため、検証指標、及び検証方法は各支部の計画に準拠する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅱ 加入者の健康度を高めること~

(2) データ分析による効果的な保健事業の実施

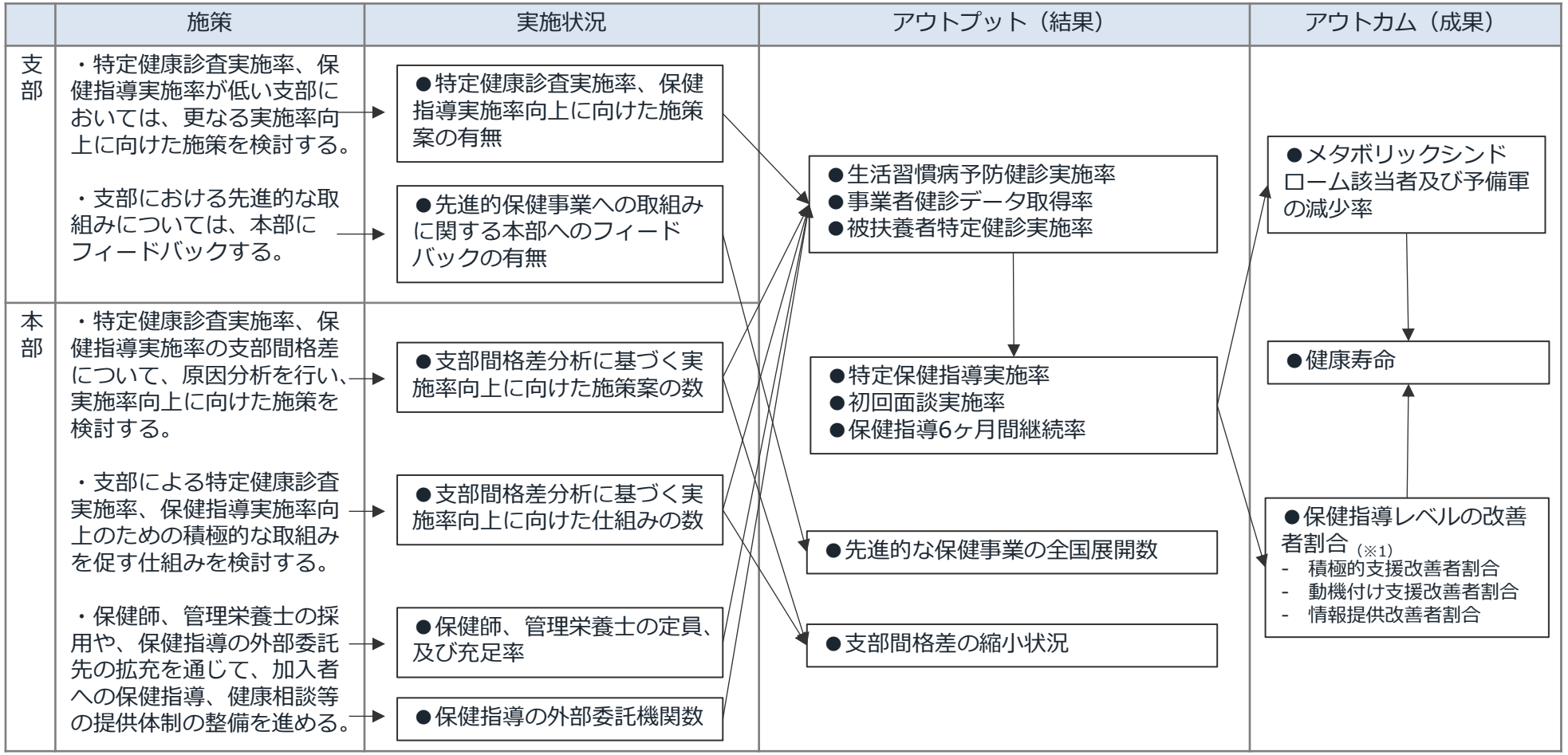
保健事業においては、地域の実情に応じて各支部で様々な取組みを行っており、事業の意図に合わせて設定された指標に基づいて検証する。限られた資源で最大の効果を得られるよう、効率的な運用にも着目する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅱ 加入者の健康度を高めること~

(３) 特定健康診査・特定保健指導の着実な実施

特定健診・特定保健指導実施率向上に向けた施策の効果を階層構造をふまえた因果関係に基づいて検証する。

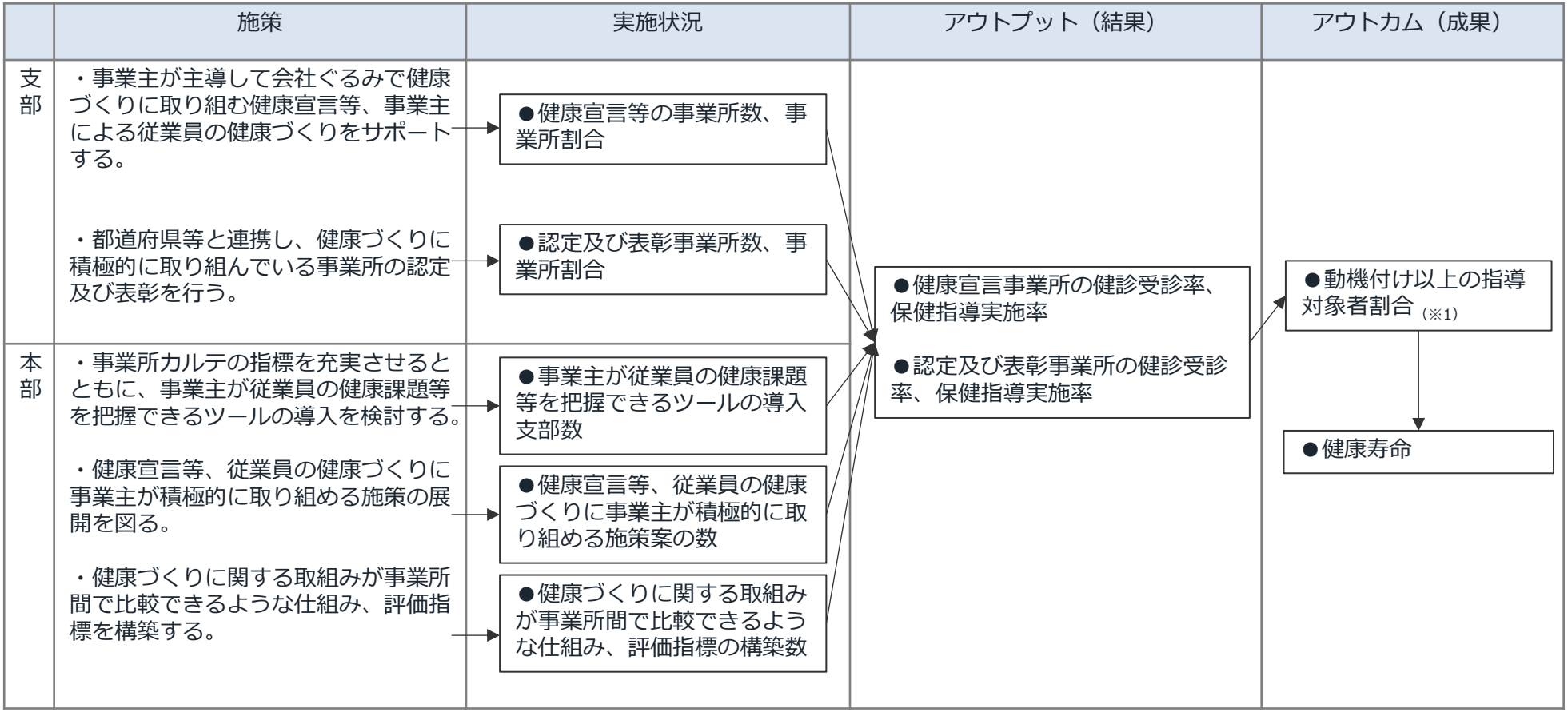


※1　ハイリスク者のみ指導しても、新規対象者や保健指導を受けない者が重症化する傾向があるため、年度ごとの全体構成の推移も確認することが望ましい。
改善者割合は対象者が２年連続受診者に限定されるため、健診受診率が低い場合、指標として偏りが出てしまう可能性に注意が必要。
改善割合＝（改善者数）/（直近2年連続受診者で前年度当該レベルの受診者）　※性年齢調整必要

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅱ 加入者の健康度を高めること~

(４) 事業所における健康づくりを通じた健康増進

事業主等の健康づくり意識の醸成を目指した取組みに着目し、施策と健診受診率や健康度との関係を検証する。

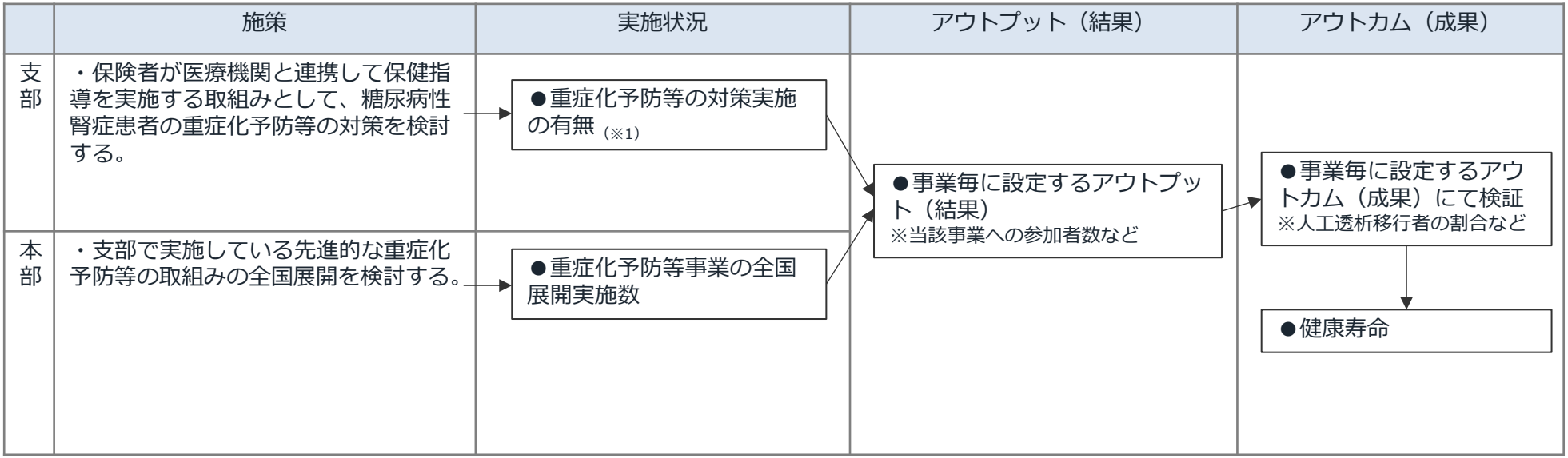


※1　動機付け以上の指導対象者割合＝（動機付け以上の指導対象者）/（特定健診受診者）※性年齢調整必要

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅱ 加入者の健康度を高めること~

(５) 重症化予防等の先進的な取組みの実施

重症化予防の対策は疾病に応じて様々な取組みを行っており、事業の意図に合わせて設定された指標に基づいて検証する。



※1　重症化予防は疾病を限定するものではなく、糖尿病に限定しないCKDや、循環器系の再発防止策等含む。

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅱ 加入者の健康度を高めること~

(６) 国や関係機関と連携した保健事業の推進

国や関係機関と連携し、加入者の健康増進を図る取組みに着目する。検証に際しては、各施策の実施内容をまとめ、目標Ⅱ（2）～（5） への影響を検討し、実施した施策にどう寄与したのか考察する。

	施策	実施状況	アウトプット（結果）	アウトカム（成果）
支部	・地方自治体、医師会等の医療関係団体、中小企業団体との間で包括的な協定等を締結し、連携の強化を図るとともに、健診・重症化予防等の保健事業を協同で実施する。	●包括的な協定等締結の有無 ●保健事業の協同実施の有無	●協同実施の保健事業への参加者数	目標Ⅱ(2)(3)(4)(5)への影響を検討し、実施した施策にどう寄与したのか考察する
	・地方自治体や大学等の教育機関と連携し健康づくりに関するセミナーやシンポジウムを開催する。	●セミナーやシンポジウムの開催の有無	●セミナーやシンポジウムの参加者数、セミナー後のアンケート結果	
本部	・協会の健康づくりの取組みを保健事業に係る検討会等で積極的に発信し、国の政策に反映させる。	●協会の健康づくりの取組みの保健事業に係る検討会等での発信状況	●協会の考えや発信した意見の国または都道府県における政策等への反映状況	
	・従業員の健康づくりを普及するため、経済団体等の関係機関や国との調整、連携を進める。	●経済団体等の関係機関や国との調整、連携状況		

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅲ 医療費等の適正化~

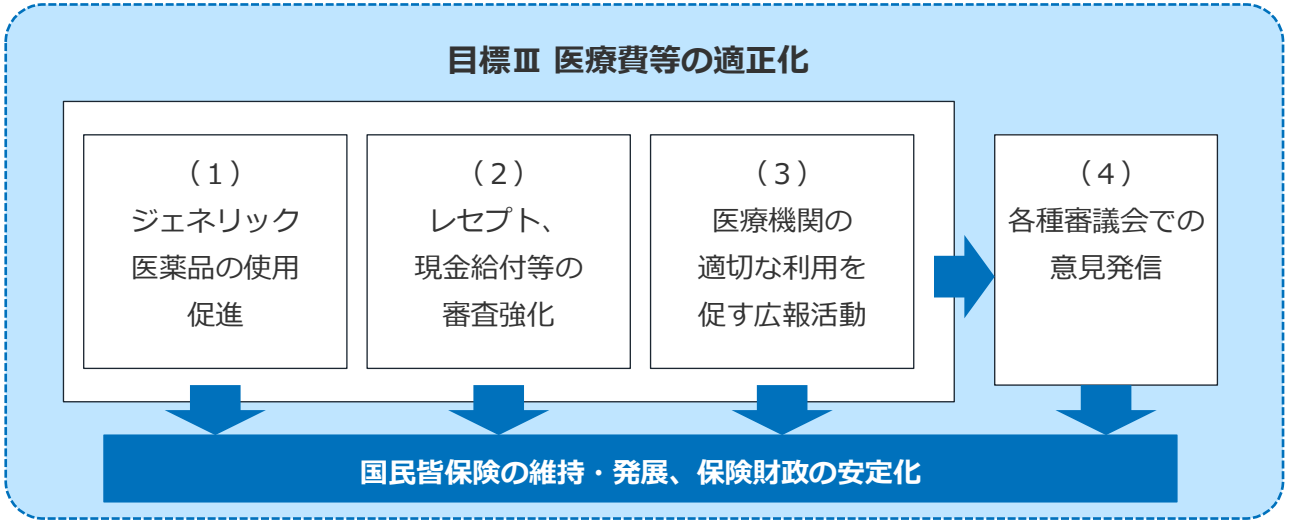
目標Ⅲ 医療費等の適正化

<目指すべき姿>

- 医療・介護に関する情報を提供することで、加入者が疾病予防等を図り、医療等を受ける際は質が高く安価な医療等の選択ができる。
- 医療費等の負担が将来的に過大とならないように、医療費等の伸びを抑え、加入者が安心して医療・介護サービスが受けられる。
- 医療費等の適正化を通じて、協会の保険財政の安定化を図る。

<アクションプラン（施策）とアウトカム（成果）の関係性>

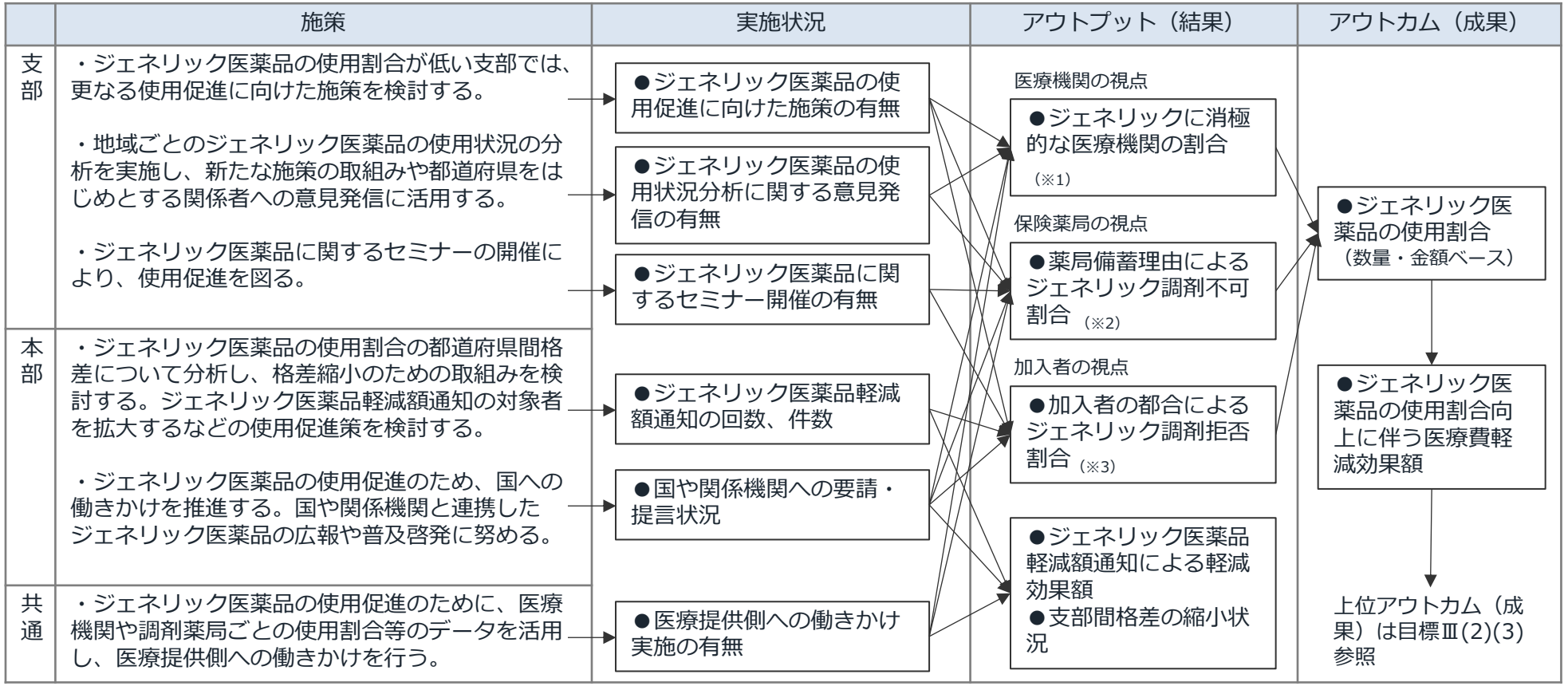
目標Ⅲにおいて （１）～（３） は医療費適正化に向けた個別施策。（４） は個別施策を踏まえた社会保険制度体系の改善に向けた国や関係機関への意見発信であり、アウトプット（結果）、アウトカム（成果）については （１）～（３） を踏襲する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅲ 医療費等の適正化~

（１）ジェネリック医薬品の使用促進

ジェネリック医薬品の更なる使用促進に向けては、医療機関、保険薬局、加入者のそれぞれの視点における阻害要因に対して、適切な対策を講じることが求められる。阻害要因指標の前年度差分に対して実施した施策がどう寄与したのか考察する。

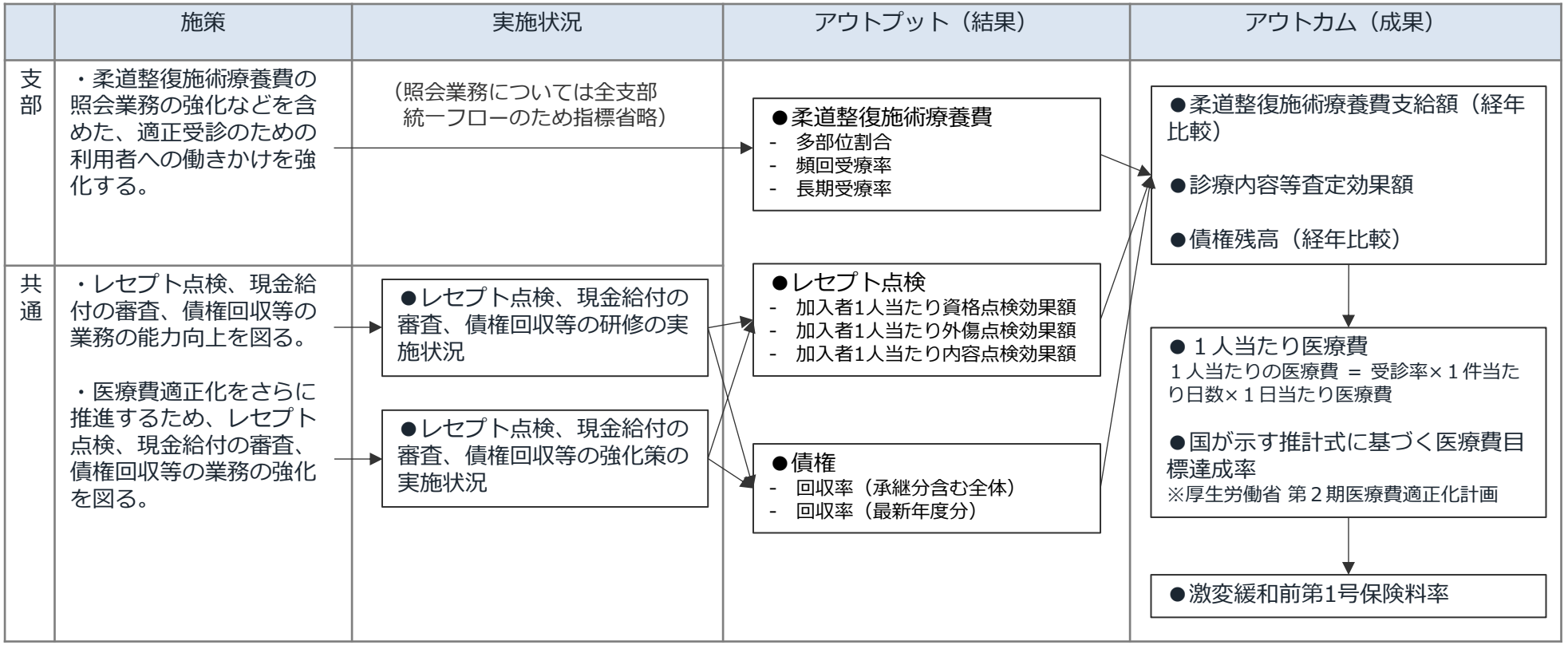


※1　調剤レセプトの処方せん発行元医療機関別ジェネリック割合が50%以下の医療機関割合
※2（調剤レセプトの一般名処方で薬局備蓄理由により後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数）/（医科レセプトで一般名処方加算のあるレセプト数）
※3（調剤レセプトの一般名処方で加入者の都合により後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数）/（医科レセプトで一般名処方加算のあるレセプト数）

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅲ 医療費等の適正化~

(2) レセプト、現金給付等の審査強化

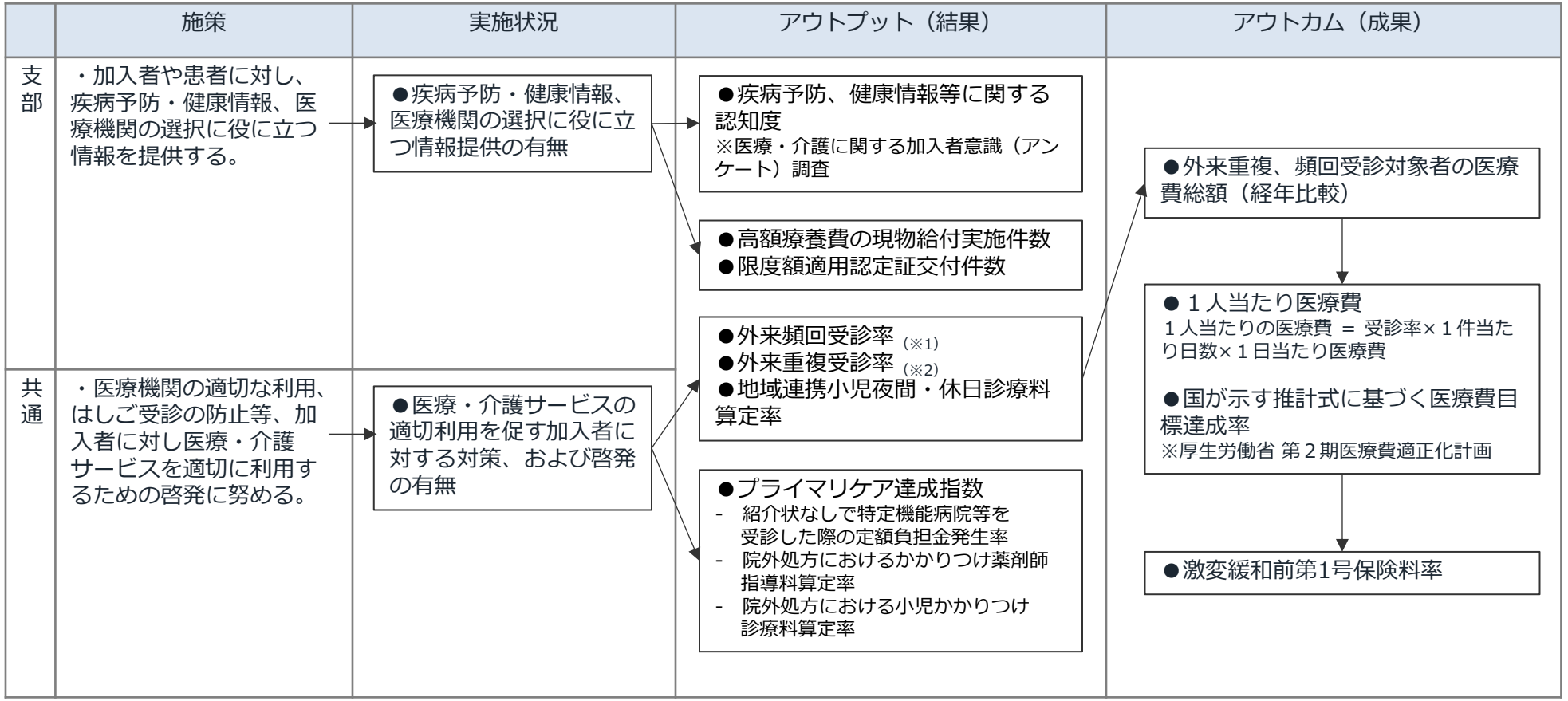
レセプト、現金給付等の審査は全支部統一のフローにて実施しているため、支部個別の実施状況ではなく、アウトプット（結果）、アウトカム（成果）で施策の有効性を考察する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅲ 医療費等の適正化~

(3) 医療機関の適切な利用を促す広報活動

加入者が国が推奨する受療行動を理解し、適切な行動がとられているか、また、頻回受診、重複投与、重複受診等の適正化を図る。高額療養費の現物給付等は、病院の取りはぐれ防止やキャッシュフロー改善につながることから、広義の医療費適正化として着目する。

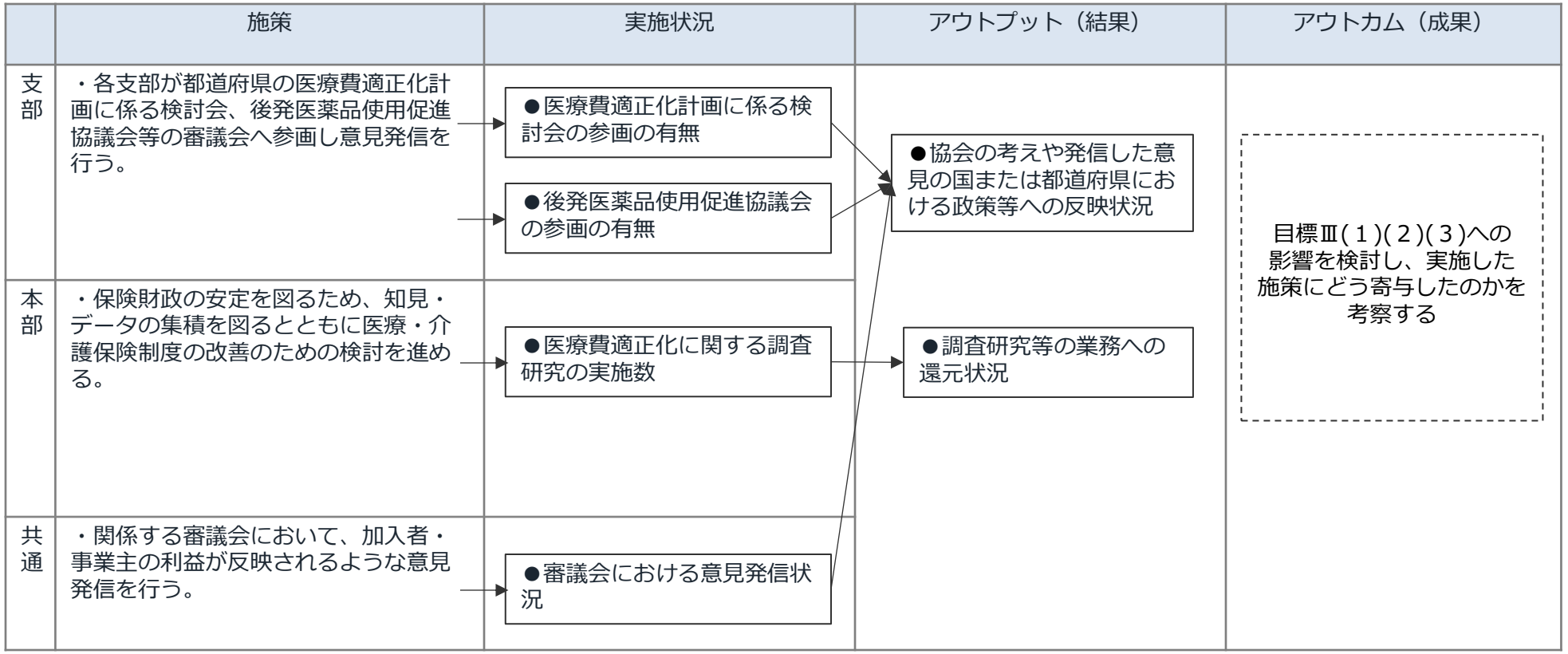


※1　頻回受診は、同一加入者が、同一月、同一医療機関にて、外来の診療実日数が15日以上のもの
※2　重複受診は、同一加入者が、同一月、同一傷病で複数の医療機関を受診するもの

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標Ⅲ 医療費等の適正化~

(４) 各種審議会での意見発信

医療費等の負担が将来的に過大とならないように、医療費等の伸びを抑え、加入者が安心して医療・介護サービスが受けられる社会保険制度体系への改善に結びつく活動に着目する。検証に際しては、各施策の実施内容をまとめ、目標Ⅲ(１)～(３) への影響を検討し、実施した施策にどう寄与したのか考察する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標を達成するための基盤強化~

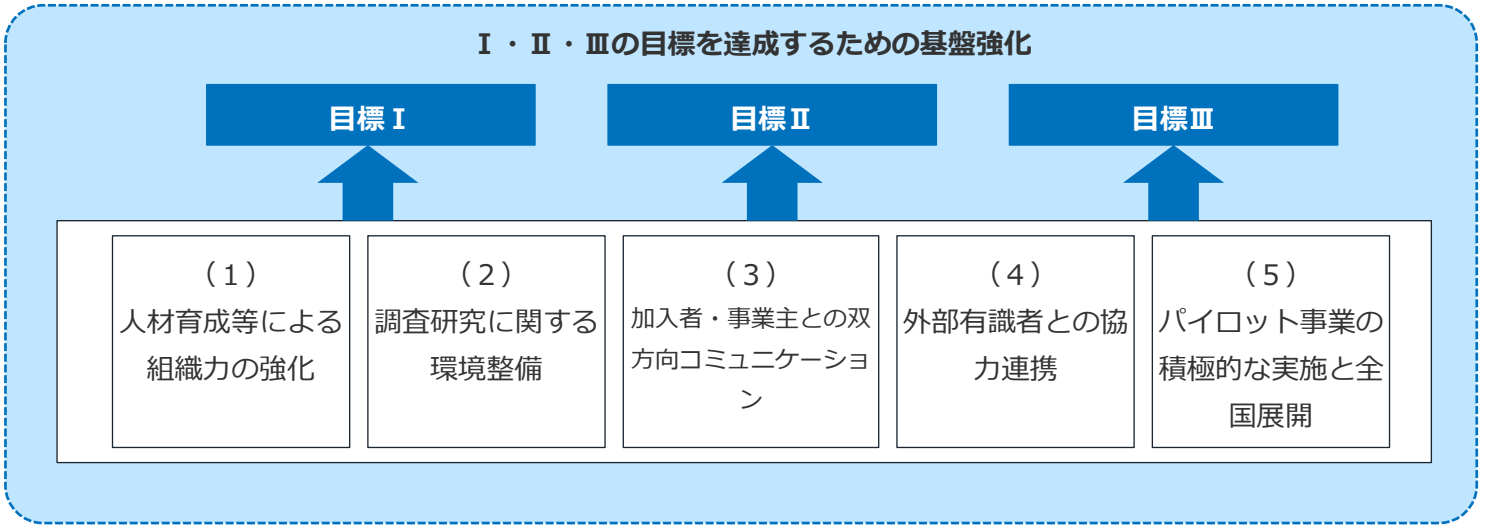
Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの目標を達成するための基盤強化

＜基盤強化に向けた着目点＞

・ 保険者機能強化アクションプランの目標を達成するため、「人材育成等による組織力の強化」、「調査研究に関する環境整備」、「加入者・事業主との双方向のコミュニケーション」、「外部有識者との協力連携」等から基盤強化を行う。

＜アクションプラン（施策）とアウトカム（成果）の関係性＞

基盤強化は目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを実現するための共通施策のため、基盤としてのアウトカム（成果）を策定するのではなく、目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのどのアウトカムに寄与するか因果関係を考察する。



保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標を達成するための基盤強化~

（１）人材育成等による組織力の強化

人材育成施策が、目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する。

	施策	実施状況	アウトプット（結果）	アウトカム（成果）
本部	・組織の要となる人材を育成するために支部担当者の研修を充実させる。特に重要性が増大する創造的な活動に必要となる人材育成及び予算の配分を充実させる。	●人材育成研修の実施回数 ●人材育成研修への参加人数	目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する。	
	・支部が参画する審議会、協議会等において、適切な意見発信を行うための基盤整備、人材育成に努める。	●人材育成研修の実施回数 ●人材育成研修への参加人数		
支部	・責任感をもって創造的な活動ができる人材を育成する。創造的な活動に携わる各支部の実務者レベルの担当者を増やす。	●創造的な活動ができる人材の育成状況		
	・関係機関と調整・協働ができる交渉力をもった人材、関係する審議会、協議会等において適切な意見発信できる人材を育成し、地方自治体等の施策に反映させる。	●関係機関と調整・協働の実施の有無 ●審議会、協議会等への参加の有無		

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標を達成するための基盤強化~

(2) 調査研究に関する環境整備

調査研究に関する環境整備施策が、目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する。

	施策	実施状況	アウトプット（結果）	アウトカム（成果）
本部	・協会が保有するレセプトデータや健診データを効果的・効率的に分析ができる環境整備を行う。	●データ分析に関する研修の実施回数 ●医療費及び健診データに関する各種リスト等の各支部への提供数	目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する	
支部	・医療の質や効率性の向上、生活習慣病リスクに応じた行動変容の状況、保健指導の効果、医療費適正化等、業務の発展に資する調査研究を図る。	●医療費及び健診データの各種リスト等を活用した調査研究の実施の有無		

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標を達成するための基盤強化~

(３) 加入者・事業主との双方向のコミュニケーション

コミュニケーション施策が、目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する。

	施策	実施状況	アウトプット（結果）	アウトカム（成果）
本部	・加入者アンケートや協会のモニター、ＳＮＳ等を活用し、加入者・事業主との双方向のコミュニケーションを行い、加入者・事業主のニーズに合致した施策の検討、実現を図る。	●加入者や事業主に対するアンケート調査等の実施数	目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する	
支部	・健康保険委員研修会やセミナー、対話集会、メールマガジン等の機会をとらえて加入者・事業主との双方向のコミュニケーションを行い、加入者・事業主のニーズに合致した施策の検討、実現を図る。	●健康保険委員研修会、セミナー、対話集会実施の有無 ●健康保険委員の委嘱者数 ●メールマガジンの登録件数、及び新規登録件数		

(4) 外部有識者との協力連携

有識者との協力連携施策が、目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する。

	施策	実施状況	アウトプット（結果）	アウトカム（成果）
共通	協会が主体となり、大学等の研究機関の有識者と協力連携し、業務に資する政策指向的な調査研究を実施する。	●外部協力有識者の有無 ●外部有識者と協力連携した調査研究の実施の有無	目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する	

保険者機能強化アクションプランの検証方法　~目標を達成するための基盤強化~

(５) パイロット事業の積極的な実施と全国展開

パイロット事業施策が、目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する。

	施策	実施状況	アウトプット（結果）	アウトカム（成果）
本部	・パイロット事業を活用して、新たに効果的な施策を検討し、協会において有益な事業については全国展開を図り、成果を外部へ発信する。	●パイロット事業で全国展開した件数	目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにどう寄与したのか考察する	
支部	・パイロット事業の提案を通じて、新たに効果的な施策を検討し、実施する。	●企画提案の有無 ↓ ●パイロット事業の実施の有無 ↓ ●パイロット事業で全国展開した件数		